

はじめに

2015年、ベトナムでは、建国70周年（1945年9月2日から2015年9月2日まで）記念のさまざまな活動が行われている。これは、各部門、各分野がこれまでの歴史と成果を総括、評価し、来るべき時代の発展の方向を定める機会となっている。国の諸機関や、その他の組織、企業、共同体の活動と関係をもつ分野の一つとして、ベトナムの文書保存は、かなり早くから形成され発展してきた歴史をもっている。この長い歴史の中で、ベトナムの文書保存は、顕著な成果を挙げ、国の建設、防衛、発展事業に重要な貢献をしてきた。この大きな節目にあたり、ベトナムの文書保存について、振り返り、その成果と限界を評価し、同時に来るべき時代の発展のゆくえを見極め、予想することは、必要なことであり、また大いに意味のあることである。

経済、社会の発展に伴い、近年、ベトナムと日本の協力関係は大変目覚ましい成果をもたらしている。現在、多くの日本の機関、組織、企業がすでに、そして今でもベトナムにおいてその協力活動を推し進め、また投資してきた。そしてその逆のこともいえる。そのような事情から、協力関係並びにビジネス関係に役立つベトナムに関する情報、その中には保存資料もあるが、それを考察、研究したいという要請は増していく傾向にある。ここ数年、多くの研究者がベトナムの国家アーカイブズセンターを訪れ、資料を収集、研究している。しかし、多くの原因から、ベトナムの文書保存分野についての情報、つまり資料の出どころと、利用者に対して求められる手続きや条件はいまだ広く知られてはいない。従って、保存データと資料の保管先およびその保存資料の調査ならびに利用に関する諸々の事項について紹介することは、日本の研究者にとって、そして広く言えば世界の国々にとって有益であろう。

このような理由から、ビスタ ピー・エス（日本の出版社）の協力を得て、我々は本書を編纂した。そのねらいは、ベトナムの文書保存事業の形成と発展の歴史を概括的に再構成し、ベトナムの文書保存事業が成し遂げてきた成

果をまとめ、評価して、今後のベトナムの文書保存の発展のゆくえを占うということである。

本書を編纂するにあたって、我々は非常に多くの資料を参照したが、その中でも、グエン・ヴァン・タム、ヴオン・ディン・クエン、ダオ・ティ・ジエン、ニエム・キィ・ホン各氏による、2010年出版の『ベトナムアーカイブ史』と党中央委員会事務局文書保存局、国家記録管理・公文書館局の研究論文やレポート、あるいは各大学の教員の研究論文は特に挙げておかなければならないであろう。

本書は、「はじめに」と「結論」を除くと、本論部分は8章に分かれており、それによって、ベトナムの文書保存の全ての分野を包含する形になっている。

この場を借りて、我々は誠心から、ビスタ ピー・エス、特に酒井氏に感謝の言葉を送りたいと思う。氏が企画を出し、環境を整えてくださったことで、本書が編纂され、出版されることとなった。本書はまた、人文社会科学大学（ベトナム国家大学ハノイ校所属）のアーカイブズ学事務管理文学部と学習院大学（日本）の人文科学研究科アーカイブズ学専攻の間の、2012年に双方の間で締結した協力に関する文書に基づいた協力関係が具体化した作品でもある。

本書が、研究者、大学院生、学生、学習者、そしてベトナムの文書保存に関心をもつすべての人にとって有益な参考資料となることを願う。

本書には、編纂、翻訳過程において諸々の誤りがきつとあることだろう。我々は、読者からの意見をいただき、今後の改善に繋がりたいと願っている。

ハノイ、2015年5月10日

筆者一同